

◆AI（人工知能）を包含する **Embedded Knowledge**（埋め込み知） という視点_
第 12 回 さようなら僕らの **SECI** モデル（本学会理事 海外担当 山崎秀夫）

野中博士が生涯をかけて完成した **SECI** モデルですが、国内では **KM** の世界で圧倒的な影響力があるものの、**KMGN**（**KM** グローバルネットワーク）などでは単なるモデルの一つとして扱われています。そればかりか新しい産業革命（デジタルトランスフォーメーション）には「不向きな理論」と言う認識が広まっています。

確かに **SECI** モデルは第二次産業革命（大量生産、大量消費）とその延長上にある理論として日本的経営の強さの秘密を世界に示しました。しかし「共同化」に代表される「以心伝心、阿吽の呼吸、先輩の背中を見て育つ、暗黙知（知の身体性）」など対面世界の要素が中心であり、デジタルツインやバーチャル・ツイン、サイバー・フィジカルなどのバーチャルな世界観に適合していません。（これは昔から指摘されていた弱点）

さて 16 世紀の昔、ドイツのマルチンルターがカソリックの免罪符を批判し、宗教時改革が始まりました。封建社会の変化を背景としたカソリックとプロテスタントの対立は、やがてウエストファリア条約（1848 年）を経て市民革命につながります。そのプロセスの中でカソリックも時代に合わせた改革が求められ「イエズス会」などが誕生し、日本にもキリスト教が伝来しました。

日本 **KM** 学会の執行の一翼を担っていた筆者は「**SECI** モデル」にも「イエズス会」が必要であり、これが学会発展の為だと言う信念をもって「**SECI** モデル」の改革に協力してきました。（**KM** 研究 17 号、巻頭論文参照）しかし「**SECI** モデル」派の中核には「改革をこころよく思わない保守派」が大勢いることがわかりました。そこで筆者は理論面から「**SECI** モデル」の「イエズス会」的な改革に手を貸すことは、無駄だと悟りました。

この点は学会内外の多くの知り合いに相談しましたが、異口同音に「サンクコスト（無駄な時間、無駄なコスト）に精力を費やすのはやめなさい」とのアドバイスをいただいております。

さて筆者は「深セン、香港のフィンテック調査」から帰国したばかりですが、深センと香港の社会の構造や環境から来るイノベーションの違いを目の当たりにし、改めてデジタルトランスフォーメーション時代の **KM** 研究の中心は埋め込み知（**EMBEDDED KNOWLEDGE**）であると悟りました。（詳細は次号以下でのべます）

SECI モデルに関していえば、必ずしも暗黙知や形式知と言う表現を使わなくてもダニエ

ル・カーネマンのシステムワン、システムツーが十分カバーしてくれます。(こちらには進化生物学も含まれます。) また人生の意味や自分とは何者なのかと言う「思いと称する部分」もバーガーとルックマンの见えない宗教論がカバーしています。更に最新理論と称する現象学の「相互主観」も既にアルフレッド・シュッツやバーガーとルックマン、ジョン・サーールらが研究しており、国内の第一人者は社会構築主義の上野千鶴子先生です。また世界の研究では、「相互主観」を使いこなしていると評判なのはユバル・ノア・ハラリです。彼の研究がKMの本質をついていると言う指摘がありますが、国内の SECI モデル派は、全く気が付かれていません。

SECI モデル学派のセクト的、宗派的な閉鎖性、保守性にはうんざりしている筆者ですが、今後は国内で紹介されていない海外の新しい見方の紹介に力を注ぎます。「さようなら僕らのソニー。」と言う本がありましたが、まさに筆者は「さようなら僕らの SECI モデル」と言う心境です。

以上